



目次

生産現場情報：	地域の維持・活性化モデル地区として中山間地域における安定的な農業経営を目指す！～農事組合法人 杉沢ファーマーリング～	P 1～4
営農支援情報：	《野菜》 夏から秋にかけての管理作業のポイント	P 5
ご紹介：	「令和5年度農業ICTセミナー」を開催しました	P 6
	「第34回秋田県JA農業機械大展示会」を開催！	P 7～8
	JAこまち「三関さくらんぼ」首都圏へ出荷「桜桃首都圏行き出発式」開催	P 9
	令和5年度「田んぼの生きもの調査」を実施しました！	P10～12
お知らせ：	おらほの逸品館紹介	P 13

地域の維持・活性化モデル地区として
中山間地域における安定的な農業経営を目指す！
～農事組合法人 杉沢ファーマーリング～

1. 法人設立の経緯

農事組合法人 杉沢ファーマーリングは、五城目町の南東部に位置し、東西には二級河川の馬場目川が流れる山間地域にあります。杉沢地区では、水稻中心の営農が行われていましたが、水田は未整備で狭いほか、地形が急勾配であるため多大な農作業の労力を要することと地下水位が高いことから乾田化が図れず、転作作物の導入も困難でした。

加えて高齢化率も55%と非常に高く、農地を守っていく「農業の担い手」の確保が急務となるなか、農業従事者へのアンケート調査を通じた自分の農地を将来、集落営農や法人に任せたいと言う全住民一致の思いをもとに、平成21年5月に「杉沢の農業を考える会」を立ち上げ、圃場整備と法人化について話し合いを重ねました。

その結果、農地の保管理体制を維持し、農地集積を進めるために平成22年1月に「農事組合法人杉沢ファーマーリング」が設立され基盤整備事業が進められました。

設 立：平成22年1月31日

代表者：代表理事 石川悦運氏

所在地：秋田県南秋田郡五城目町馬場目字杉沢上台113

構 成：24名（うち役員：理事4名、監事1名）



代表理事 石川悦運氏

2. 経営の概要等（令和5年度）

■経営面積30ha

水稻：21.4ha

あきたこまち21ha

もち米（きぬのはだ）40a

枝豆：7.8ha

（品種）神風香、味風香、湯上り娘、ゆたか娘、
つきみ娘、夏風香、栄錦、初だるま、
あきたほのか、青祭、とびきり

ほうれん草：280坪

（70坪×4棟ハウス）

業務用キャベツ：40a

南瓜：10a セリ：10a



農事組合法人杉沢ファーマーリングの皆さん



ドローンで撮影した杉沢ファームの圃場

3. 経営の特色

平成24年度から着手した農地集積加速化基盤整備事業により、水田標準区画50aの整備、排水環境の改善で枝豆、ほうれん草などの高収益作物の導入が進みました。特に枝豆の作付面積は事業前の6倍に当たる6.6haに拡大しました。

稲作は、法人のハウス4棟（※3.5間×20間）と組合員のハウス2棟での育苗をしており、耕起、代掻きは45馬力、60馬力のセミクローラーのトラクター2台で作業をしています。田植え作業は、8条の移植同時施肥GPS機能付きを使用しています。薬剤散布以外の水管理、草刈りは、組合員に割当をして管理を行ない、畦半の、のり面がきつい所などは、役員と従業員で共同作業で行っています。

刈り取り作業は、3条27馬力、5条75馬力のコンバインを使用しています。ライスセンターは乾燥機4台（5反2台、4反2台）、粳貯蔵機2台（5反）にて、ベルトコンベアーによる搬送で粳摺り、米選機、色選別機、計量タンクを通してJAにフレコン出荷をしています。

また、令和4年度からふるさと納税で始めた「五城目町杉沢産清流米あきたこまち（精米10kg）」の知名度アップを図りたいとのことです。 ※1間（いっけん）は、約1.82メートルです。



安部龍希氏（24歳）・齊藤柊平氏（26歳）



2人で切磋琢磨している頼もしい若手職員

枝豆のマルチは手作業の播種、露地は機械播種で行い、管理については草取り、ブーム・スプレーによる薬剤散布、管理機での培土を数回行うことが収穫までの流れとなっています。

収穫に関しては、トラクターに取付けた収穫機（G T H-1）で収穫、脱莢をしています。その後、枝豆選別場で、洗浄、脱水し、2台の選別ラインに流して選別したものをコンテナに入れ、保冷库保管した後夕方の出荷となります。

出荷先はJ A（A・B品）の他、直売所、個人販売、農家レストラン「清流の森」に選別した枝豆を納品しています。



適期防除！



収穫機（G T H-1）での収穫

その他に、田植え作業が一段落すると育苗ハウスを利用してトマト（1棟）、トウモロコシ（1棟）、冬季野菜として、ほうれん草、水菜、小松菜を栽培しています。

また、若手職員の雇用・育成や近隣地区と連携した地域づくり活動が評価され、令和3年度農業農村整備優良地区コンクールの「中山間地域等振興部門農村振興局長賞」を受賞しています。



収穫作業



収穫された極早生の「神風香」



育苗後はトマト・とうもろこし・冬季野菜でフル活用のハウス



選別作業

5. 今後に向けて

理事の石川政廣氏は、限られた圃場（30ha）で試行錯誤している状態だと謙虚に話されていました。中山間地で通常に栽培しても収量が取れない地域であるということを念頭に置いて、収量にこだわらず、より美味しい作物を作ろうと皆で頑張っているとのことで、将来的には、米や枝豆を直接販売できるルートを築き上げながら、活気ある状態を維持し、法人経営の担い手になることが期待される若手職員に杉沢の農地と農業を守ってほしいと熱く語っていらっしゃいました。

その期待の若手職員の齊藤柊平さんと安部龍希さんは、農業未経験で、1年以上のアルバイト経験を積んで、今では正規職員とし農作業全般と機械のオペレーション等で大きな戦力となっています。

品質向上に努めながら米と枝豆の面積を拡大をしていきたいとのことで、ゆくゆくは大豆の作付けもしていきたいとのことです。

また、枝豆は鳩被害や高温障害・湿害等の影響で収量が低いため（330kg/10a）、明渠対策などで反収アップに繋げていきたいとのことです。（目標収量400kg/10a）



稲刈り作業



「五城目町杉沢産清流米あきたこまち」

このたびの大雨により、被害を受けられましたこと心よりお見舞い申し上げます。

また、一日も早い復旧をお祈り申し上げます

《 野 菜 》 夏から秋にかけての管理作業のポイント

暑さのピークを迎えるこの時期の高温対策が特に重要です。施設・露地栽培ともこまめなかん水管理や通路散水等を行い草勢維持に努めてください。

【雨よけホウレンソウ】

曇雨天後の強い日差しにより葉がしおれたり、葉焼けを生じる場合があります。特に生育初期の地際部は高温障害を受けやすいので、遮光資材等を活用し地温の上昇を抑えます。また、土壌が乾燥すると、ほうれんそうの生育が停滞するため、播種前のかん水はムラなく十分に行います。

発芽まで3～5日を要しますが、この間に種子のある深さまで過乾、過湿になると発芽不良になるので気温や土壌の乾燥状態に合わせた土壌水分管理が重要です。発芽直後から本葉4枚頃までは、立枯病や徒長を防ぐため基本的にかん水を行いませんが、砂質土壌や乾燥傾向の場合は若干量行います。収穫7～10日前ころからは、品質低下を防ぎ、葉色の向上と葉の厚みを持たせるためにかん水は行いません。



【秋冬どりキャベツ】

秋冬どりキャベツの定植は一番暑い高温乾燥時に行われるので生育抑制・遅延を招きやすくなります。かん水施設のあるところでは、夕方か朝の温度の低い時に積極的にかん水します。特にセル成型苗の場合は定植後に乾燥している場合にかん水の効果が高まります。



第1回目の追肥は定植後15～20日頃に畝の肩に施し、第2回目は結球始め頃に畝間に施し軽く中耕・培土します。追肥量はチッソ、カリ成分で1回当たり4～5kg/10aとします。

【秋冬ネギ】

10月から収穫が始まる秋冬ネギは、出荷規格の軟白長が30cmになるので8月以降の土寄せが重要作業となります。畝を平らにする削り込みが終了後、20日前後の間隔で土寄せを行い、最後の土寄せは収穫予定の25～35日前に行います。収穫期間が長くなると葉鞘部の伸長が進み、葉鞘部が緑白部（ボケ）になり品質が低下するので、最終土寄せは大面積を一斉に行わず、日毎の収穫量に合わせて行います。最後の土寄せ以外は、葉身部と葉鞘部の分岐点を超えないように分岐点から10cm程下まで行い、最後は葉身と葉鞘部の分岐点まで行います。



「令和5年度農業ICTセミナー」を開催しました

J A全農あきたは6月15日、T A C（地域農業の担い手に出向くJ A担当者）のスキルアップと活動強化をはかるため、「令和5年度農業ICTセミナー」を開催し、県内J Aから20名が参加しました。

J A全農が開発した営農管理システム「Z-GIS」の最新機能の紹介と栽培管理支援システムの「ザルビオフィールドマネージャー」の機能と導入したJ Aの実証事例が紹介され、優良事例を共有しながら、実践的な利用方法を学びました。J A担当者からは、「ザルビオフィールドマネージャーを導入した経緯などを詳細に知りたい」などの声が聞かれました。



*「Z-GIS」とは・・・

J A全農が開発した地図上の圃場に合わせて作成したポリゴン（圃場）とExcelで管理した圃場の情報を紐づけて管理するクラウド型の営農管理システムです。

*ザルビオフィールドマネージャーとは・・・

ザルビオは、作物や品種、気象情報、人工衛星からの画像等、様々な情報をAIによって解析することで、最適な栽培管理を提案する新しい栽培支援システムです。

「第34回秋田県JA農業機械大展示会」を開催！

JA全農あきたとJAグループ秋田は6月14日・15日・16日の3日間、秋田県立スケート場を会場に「第34回秋田県JA農業機械大展示会」を開催しました。

今年は「新たな秋田の農業へAIの技術を」をテーマに、約30のメーカー各社が最新農業機械などおよそ2500点を展示。期間中は約2800人の来場者でにぎわいました。



会場には、自動操舵（そうだ）機能の付いたトラクターや田植機、農業用ドローンなどICT技術を活用した各メーカーの農業機械や共同購入トラクターなどが展示されました。また大型農業機械の実演をおこなった「スマート農業実演コーナー」は、来場者の注目を集めました。

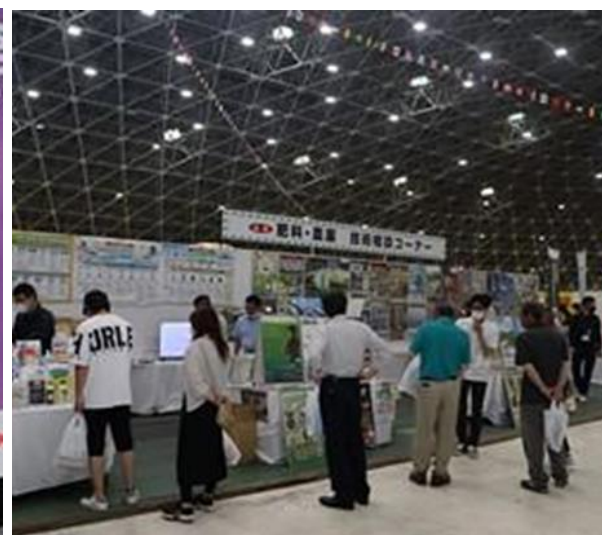


今年は、複合型農業に対応するため「園芸関連機械コーナー」を設置しました。えだまめやネギなど7品目の収穫や選別に使用する機械を展示しました。

ほかにも、肥料や農薬、農業資材の展示や、営農管理システム「Z-G I S」の紹介も行いました。各コーナーでは熱心に説明を聞く来場者の姿が見られ、「最新機械の情報が得られてよかった」「各メーカーの機械を比較できてよかった」という声が聞かれました。



営農管理システム「Z-G I S」紹介コーナー



肥料・農薬の展示、相談コーナー

ＪＡこまち「三関さくらんぼ」首都圏へ出荷～「桜桃首都圏行き出発式」開催

あきた園芸戦略対策協議会（事務局：ＪＡ全農あきた）は６月１９日、ＪＡこまちフルーツセンターで「桜桃首都圏行き出発式」を開催しました。

この日は、生産者やＪＡの関係者など約４０人が参加し、約８００箱の「三関さくらんぼ」を載せた首都圏行きトラックを見送りました。

昨年までの２年間、天候の影響などをうけ収穫量が平年を大きく下回りましたが、今年は好天が続き豊作が見込まれています。ＪＡこまち桜桃部会高橋信治部会長は「今年は、例年以上の結実を確保した。生産者の努力と関係者の力が結集した作柄だと思う。多くの人に届けられるよう頑張りたい」と話しました。

６月１６日、試食宣伝会を秋田市公設地方卸売市場で行いました。ミス・フレッシュ秋田が市場関係者に試食をすすめ、おいしさをＰＲしました。試食した人からは「甘い！おいしい！」と好評でした。



秋田市公設地方卸売市場での試食宣伝会



佐竹敬久県知事に収穫報告



今年は、着色や肥大は良好で糖度が高いさくらんぼが出来上がりました。出荷量は平年並みの５０トンを予定しており、主力品種の佐藤錦は７月上旬まで出荷が続く見込みです。６月下旬からは、近年生産量が増加している晩成品種「紅秀峰」の出荷が始まります。



令和5年度「田んぼの生きもの調査」を実施しました！

6月29日、大仙市豊成小学校5年生の20名が参加して「田んぼの生きもの調査」を実施しました。

JA全農では、次世代を担う子どもたちへの食農教育の一環として、田んぼに入り、生きものと触れ合う中で、「食」「農」の大切さや、農業（水田）の持つ多面的機能や生物多様性との関わり、環境保全に果たす役割を「五感」で感じてもらう活動として取り組んでいます。

まずは、全員で田んぼの中の調査を開始。子どもたちは、苗を踏まないように慎重に田んぼに足を踏み入れ、おたまじゃくしやアメンボ、ヤゴなどを採取しました。

その後、動物班と植物班に分かれ、動物や植物の図鑑を使って名前を調べ、調査用紙に記録しました。



【植物の調査班】

植物班は、田んぼのまわりに生えている植物を採集しました。植物の先生はJ A全農あきたの加藤政尚 参与。見た目は似ていても、根や花の形、茎の中などの違いがあり1種類ずつ確かめました。また、実際に「ヨモギ」や「ドクダミ」など特徴ある匂いを嗅ぎ「嗅いだことある」「くさーい」など子供たちは楽しそうに植物に触れあっていました。今回は、ヨーロッパからきた「紅輪タンポポ」やきりたんぼ鍋などに入れる「セリ」の花など珍しい植物もあったほか、衣服などにくっついてブローチのようになる「キュウリグサ」など30種類以上の植物を調査しました。



【動物の調査班】

動物の先生は秋田自然史研究会の佐藤福男先生。先生に解説してもらいながら、捕まえた動物を図鑑で調べ実際触ってみたりしながら観察しました。準絶滅危惧種に登録されている「クロゲンゴロウ」や「マルタニシ」の他、「トノサマガエル」や朝の時間にしか見ることのできない「アキアカネ」の孵化を見ることができました。この日調査した動物は15種類以上。子供たちは「見たことない生物がいて興味がわいた。また自分で探して調べてみたい」など話していました。



ＪＡ全農あきたは、県内ＪＡおよびＪＡ青年部と連携し、６月～７月にかけて令和５年度の「田んぼの生きもの調査」を実施しました。今年は、大仙市豊成小学校の他、県内１１カ所の小学校で行われ、子どもたち約２８０人が参加しました。



おいしい日本と暮らそう

JAタウン

おらほの逸品館



ＪＡ全農あきたのインターネットショッピングサイト「おらほの逸品館」

全国農業協同組合連合会（ＪＡ全農）が運営するインターネットショッピングモール「ＪＡタウン」。
「おいしい日本と暮らそう。」をテーマに全国の旬の農畜産物や特産品を産地直送でお届けしています！

秋田のおいしい食材を、続々更新中！

おらほの逸品館

検索

詳しくはこちらをCHECK

離れて暮らすご家族やご親戚・ご友人に、ふるさと秋田のおいしいものを贈りませんか！
贈り物にはもちろん、ご自宅用の「ふだん買い」にも、
インターネットならいつでもゆっくりとお買い物を楽しめます。














※写真はイメージです。

お問い合わせ先 / ｾﾞﾝﾉｰｱｷﾀ 管理部企画管理課 ☎018-864-2465
<https://www.ja-town.com/shop/c/c2301>



Za・あぐりふおーむ

Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第42号 令和5年8月7日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462